

## 平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター・教授
氏名 Name	岸田泰浩
専門分野 Academic Field	言語学

### 平成 29 年度 研究計画（ホームページで公開） Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	コーカサス地域の言語研究 明証性の通言語的研究、格助詞の類型論的・歴史的研究				
研究計画（400 字～500 字で記入すること。） Research Plan（Approximately 100 Words） 類型論および言語接触という観点から所与の言語に特有と考えられる特徴の探求を主要テーマとする研究を継続する。今年度は、「明証性」と「格」を中心的テーマとする。「明証性」については、その形態構成及び統語的特性を通言語的に考察し、理論的な研究を推進するために活用できる類型論的特徴を探求する。特に Chafe & Nichols(1986)以降、明証性は、研究者の注目を浴びてきたものの、テンス・アスペクト・モダリティーに比べ、その認知度はまだ高いとは言えず、また、従来は、意味論的なアプローチが主流で、形態論や統語論における特徴は十分整理されているとはいいがたい。そこで、世界の様々な言語で明証性、または、類似概念として記述・分析されている現象を精査して、明証性に関するデータを体系的に蓄積し、その形態構成の類型及び形態と意味・統語との間に観られる相関について考察する。「格」の研究については、コーカサス地域の言語における格の歴史的・概念的発展について調査するとともに、それらと類型論的に興味深い類似点を示す日本語の格の機能や歴史的・概念的発展についても考察を深めていく。					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	言語学（一般・コーカサス）	日本語学（現代）	外国語教育	日本語教育	
キーワード Keywords*2	類型論	明証性	格	アルメニア語	グルジア語